

平成 30 年度 第 2 回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議内容

日時：平成 30 年 8 月 31 日(金) 14:00～15:50

場所：郡山市役所西庁舎 5 階 5-2-1.2 会議室

【出席者】

委員：初澤会長、高橋副会長、飯田委員、菊地委員、胡摩ヶ野委員、
相模委員、長尾委員、久井委員、松枝委員、水野谷委員、
山田（慶）委員、山田（剛）委員、渡辺委員
（欠席：金内委員、渡部委員）

事務局等：藤橋産業観光部長、村田産業観光部次長、
鈴木産業政策課長、穴戸産業政策課長補佐、
齋藤産業政策課産業政策係長、鈴木産業政策課産業振興係長、
安藤産業政策課産業政策係主任、渋谷産業政策課産業政策係主任

【傍聴者】なし

1 開会（司会：穴戸課長補佐）

2 会長挨拶

- ・効率的な会議運営のため、大きな議題は一つに絞りたいと考え、今回は「(仮称)郡山市産業振興ビジョン」について議論をいただき、その後、委員からの情報提供をお願いする。皆様の御協力をお願いしたい。

3 議事

会長が議長となり議事運営。

（初澤会長）

- ・前回の会議内容を配付しているので、確認いただきたい。
- ・本日の進行について、事務局から事前に、委員の皆様へ連絡しているが、改めて事務局から説明して欲しい。

（事務局：鈴木課長）

- ・議事(1)（仮称）郡山市産業振興ビジョンについては、前回の振興会議や他の団体

からの意見、国・県の動向等を踏まえ、ビジョンの骨子を作成したので、この骨子に対してご意見をいただきたい。

- ・ 議事(2)委員からの情報提供等では、皆様方の取組事例などの情報提供や中小企業等への支援策などについて紹介いただき、議論いただきたい。
- ・ 議事(3)その他では、事務局から次回以降のスケジュール等を説明する。
- ・ 以上により、本日の会議全体で2時間程度を予定している。

(1) (仮称)郡山市産業振興ビジョンについて

事務局から資料1、2により説明。

(初澤会長)

- ・ 振興会議はビジョン策定委員会ではなく、策定するのは市である。振興会議としては、案に対して施策を充実するなど、様々な視点から意見を頂戴したい。
- ・ 産業振興ビジョンは商業振興計画と工業振興計画を統合するものなので、意見については、商業・工業の共通のもの、商業に関するもの、工業に関するものといった視点でいただきたい。特に、中小企業や小規模企業を意識した意見を頂戴したい。

(相模委員)

- ・ (キャベツ餅2018 MUSIC LIVE (9/16開催)の説明。) 現在、このプロジェクトでは6次化商品の開発を目指している。冷凍キャベツ餅スティックの加工場として空き家が必要。文京学院大学の学生のような移住者を受け入れるためにも空き家が必要。1つ目の柱「地域商業の振興」に「空き店舗活用の推進」とあるが、空き家の提供や支援をお願いしたい。
- ・ この6次化プロジェクトに、行政など皆さんの協力をお願いしたい。
- ・ 「②ビジョンの実現・推進に向けて(地域別構想)」で、インターチェンジ周辺地域開発の検討とあるが、県の条例など課題も多いが、ぜひ進めて欲しい。

(事務局：鈴木課長)

- ・ 具体的な事業の提案については、検討させていただく。

(長尾委員)

- ・ 空き店舗について、郡山商工会議所のチャレンジショップの経験者が空き店舗を活用できるスキームがあると聞いている。
- ・ 空き店舗はどのくらいあるのか。

(事務局：鈴木課長)

- ・本年3月に、郡山駅前周辺を職員が目視で確認したところ 24 店舗であった。震災後、空き店舗であった建物が解体され駐車場になるなど、建物が減っている。

(長尾委員)

- ・創業したいという方にエントリーしてもらい、創業者のコンテストの上位者には家賃を補助するなどインセンティブをつけて優先的に貸してはどうか。

(水野谷委員)

- ・骨子案の組み立てについて、4つの柱と「①連携による産業振興」、「②地域別構想」の関係性がよくわからない。

(事務局：齋藤係長)

- ・「①連携による産業振興」は、4つの柱を実現・推進するために連携すべきというもの、「②地域別構想」は、郡山市も地域の特性があり課題も様々なので地域別に分類しているもので、それぞれ4つの柱に対して串刺しとなる位置付けである。

(水野谷委員)

- ・農林業についても、経営者は小規模事業者であるので、施策として項目立てが必要ではないか。
- ・空き店舗だけでなく、空き家の活用についても検討すべきである。
- ・4つ目の柱「人材育成」について、次世代リーダーなど長期的な目線だけでなく、事業承継問題を考えれば、後継者候補の育成も必要である。
- ・東京一極集中への対策、U I J ターンの推進のため、移住者への生活の支援（空き家活用も含む。）も必要である。
- ・「①連携による産業振興」、「②ビジョンの実現・推進に向けて」については、どんな連携をイメージしているのか。まだ検討段階なのだろうが、具体性がないので、具体化すべきである。

(事務局：齋藤係長)

- ・農林分野については、別途、農林業の計画がある。産業振興ビジョンでは、農林業との連携を重視している。
- ・移住定住の施策としては、別途、プログラムを作成しており、産業振興ビジョンでは、しごとづくりの面などを特に検討していきたい。

(松枝委員)

- ・「1. 地域商業の振興」の柱に運送業とあるが、運送業や建設業など業法でしぼられている業界は、代表者がそれぞれの許可を持っていないと事業承継に影響することがある。
- ・最近、建設業者が福祉や飲食業などに業態変更しているなので、その旨を、2の工業の柱、または「①連携による産業振興」の業種間連携に、状況を踏まえたほうが良いと感じた。
- ・カタカナや横文字が多い感じがする。まず日本語を記載して、英語を併記すべき。
- ・SDGsの話が出ているが、国は未来投資戦略で事業承継プランなどを出しているの、これをビジョン化したほうが具体性があり、補助金などを取るのにつながるのではないか。
- ・ターゲットは働いている方で、消費者は誰なのか見えてこない。住んでいる人なのか、インバウンドの外国人を目指すのか。

(事務局：齋藤係長)

- ・物流は商業だけではなく産業全般に関係するので、記載箇所を検討したい。建設業についても、記載を検討したい。
- ・カタカナ等の表記については、今後ビジョン案の作成を進める中で、分かりやすい表現に努めていく。
- ・未来投資戦略はビジョン策定に参考としているが、さらに読み込みたい。
- ・ビジョンのターゲットは本市産業界全体だが、項目によって整理していきたい。

(菊地委員)

- ・4つの柱の「人づくり革命」について、「郡山の特性を生かしたワークライフバランス」とあるが、郡山という独自色をプラスし、郡山だからこそできることを記載すべきである。
- ・稼ぐ力の向上について、郡山でも約7割が赤字事業者であるなど赤字の事業者が多い。自主廃業者へのフォロー策があるべきではないか。
- ・郡山を一言で言うと何か、何をを目指すのかというものがあると良い。

(事務局：齋藤係長)

- ・郡山市まちづくり基本指針の大綱Ⅰ「産業・仕事の未来」に「みんなが誇れる『郡山といえばこれ!』という産業があるまち」と定めており、産業振興ビジョン案の作成の中で検討していく。

(胡摩ヶ野委員)

- ・平成 30 年 4 月から郡山に住んでいる。外部から来て感じる郡山市の印象としては、東京から近い、交通の便がいい、新幹線が停まる立派な駅舎があって駅前が賑やか、「楽都」を前面に出して文化的である、病院が多い、子供が多い。一方、外国人が少ない、カードが使える飲食店が少ないといった面もあるが、全般的に、他の同規模の中核都市と比べても優位性が高く競争力もある。
- ・空き店舗の活用の推進について、学生や外国人はなかなか空き店舗を借りられない。制度を見える化して、きちんとしたルートで借りられるまちにしてほしい。空き店舗活用補助金は、大家側にも固定資産税の減免などメリットがあれば貸し手が増えると思う。郡山市の補助制度は、借りる側への補助か、貸す側への補助か。
- ・ジェットロ・ジャイカについて。先日、香港のジェットロから依頼を受けて、我々が支援している会社をいくつか紹介したところ、何件かの商談が進行中である。特に、東南アジアは日本製品に対する評価は高い。ジェットロも海外で売れるもの、ネタを求めおり、連携すべきである。
- ・「1. 地域商業の振興」に「他の商圈に負けない魅力」とあるが、郡山商圈の独自性について、どの商圈をターゲットにするのかを決めるべきで、すべての商圈に負けないように考えると、総花的な計画になってしまう。郡山は、交通の要衝の地であり、東北の玄関口としての優位性を持っており、東北の良さと北関東の良さを併せ持つ地ということを中心に据えるべきと考える。

(事務局：鈴木課長)

- ・本市の空き店舗活用補助金は家賃の補助で、借りる側への補助である。

(相模委員)

- ・郡山の事業者も、実習生を海外から呼んでおり、空き家に住んでもらっている。外国人というだけで貸し渋りがある。外国人実習生にも空き家の貸出しができるといいが、外国人実習生は近隣とトラブルになりやすい、空き家データがあるといい。

(水野谷委員)

- ・空き家について、県で貸す側の補助制度があり、国で遊休不動産の支援事業がある。これら国・県の制度も活用し、連携できるようビジョンに組み込めれば良いと考える。

(事務局：鈴木課長)

- ・今回のビジョンは産業振興のためのものであるので、空き家の活用については、記述できるところが限定的となると思うが、空き店舗との関連で記述できるところを検討したい。

(松枝委員)

- ・「①業種間連携」に福祉産業との連携について、住宅も福祉政策であると思うので、空き家の活用を、福祉との連携に記述するか検討すべきである。空き家政策は補助制度だけで良いのか。誰に補助するかも大事だが、どのように使われているかをビジョンに盛り込むべきである。国は復興庁で補助金があるので、市は同じことはやらずに、貸し手側のインセンティブになるようにすべきと考える。
- ・東北にはあまり外国人が来ない。会津は免税店などで観光誘致を行っている。観光のストーリーを考えるべき。

(初澤会長)

- ・前回会議の資料2で、農業、観光、福祉など各個別計画と整合性を取るとあるが、どこまで踏み込むのか。

(事務局：鈴木課長)

- ・例えば、福祉産業との連携では、現在、医療・介護ロボットや、福祉・介護施設の整備、人材不足などの課題から、産業部分としての連携が必要であるものをピックアップしてビジョンに入れ込みたいと考えている。

(久井委員)

- ・郡山市にとって猪苗代湖は重要な地域資源であると考えられる。観光的に開発できないか。猪苗代湖の郡山市部分をカヌーやトライアスロンなどの聖地、学生の合宿地などに開発できないか。
- ・郡山市の特色について、郡山市のまちの規模に対して大きなビルが多い。病院や研究機関が多いなど医療分野に強い。衣食住を医食住にしてはどうか。米もかつては生産量日本一であったし、ある程度の都市機能があって、首都圏に近い、自然環境にも近いなど、郡山市は住みやすいまち。この辺をキーワードにして、まちづくりを進めると良いのではと考える。

(事務局：鈴木課長)

- ・湖南地域の観光開発について、現時点では、具体的なプランは無いが、ビジョンに入れ込むかは今後検討したい。

(山田(慶)委員)

- ・郡山市は都市機能と自然が共存している。
- ・私の会社では、これまで多くの中途採用を行ってきた、県外から来ている採用者に、郡山市は自然が多く、子育てがしやすいまちと説明してきた。20代、30代の若い世代にとって、ワークライフバランス、子育て環境は重要であるので、その点からのまちづくりを大事にしてほしい。
- ・女性が働く環境の整備が重要であると考えますが、私の会社では、最近、女性を採用しても、夫が転勤族だと、夫の転勤があると、退職して夫について行ってしまおう。妻が働く郡山に、夫を引き抜く方法を試行している。子育てにいいまちをアンカーにすれば人は定着すると考える。

※後日追加意見

(山田(剛)委員)

- ・目指すべき姿を4つに明確化し、わかりやすくなったと感じる。
- ・郡山は、何も秀でていないまちではなく、農商工のバランスがよく、自給潜在力が高いまちと言える。域外流出の抑止が地域経済に寄与する貢献度は高い。
- ・都市圏で高い所得を得ていた方が、退職後、郡山市に移住し定住する傾向があり、理由は、住んでいる人の良さとのことである。
- ・地域経済の現状を把握するため、産業関連表からの分析や市場調査を実施してはどうか。
- ・ふるさと回帰支援センターへのUIJターン希望者が近年、倍増している。同機関との連携と、移住に向けた住環境の体系的整備、情報発信が重要である。

(初澤会長)

- ・様々な意見を頂戴した。事務局はビジョン策定に向け検討して欲しい。

(2) 委員からの情報提供等

(高橋副会長)

- ・(資料「平成30年度経営発達支援計画の内容一覧」により、郡山地区商工会広域協議会の具体的な取組み(アクションプラン)について説明。)

(相模委員)

- ・(資料「郡山市中小企業・小規模企業振興会議 参考資料」により説明。)

- ・地元郡山に戻って就職したいが、情報が少ない。田舎暮らしの良さを知ってもらいたい。などを踏まえて、市内経済団体、観光団体等が連携して、首都圏で合同企業説明会の開催を提案したい。

(初澤会長)

- ・委員2名からの情報提供について、意見、質問があれば。

(松枝委員)

- ・郡山市は中心市街地活性化計画を2回断念しているが、福島市のように、中心市街地活性化計画、駅前活性化ビジョンを作って、国・県から補助金を引っ張り、キーパーソンがいるまちづくりが欠かせないが、郡山市は縦割り過ぎて、ハードは都市整備部、ソフトは産業政策課となっており、連携をすべき。中心市街地活性化計画はどうなっているのか。

(初澤会長)

- ・情報提供した委員への質問ではなくて、事務局への質問ですか。

(事務局：鈴木課長)

- ・全庁的横断的に連携を図って策定を進めている。
- ・(後日確認：郡山市中心市街地活性化計画は今後策定予定。)

(事務局：澁谷主任)

- ・(資料「JICA 郡山デスク設置」ほかにより説明。)

(3) その他

(事務局：齋藤係長)

- ・今後の予定として、第3回会議は、「産業振興ビジョン」(案)の確認、次年度へ向けた具体的な中小企業等振興策などについて、10月下旬から11月上旬を予定している。第4回は、各団体及び本市の新年度の取組み等について、年度末の開催を考えている。

(事務局：鈴木課長)

- ・本日の会議の中で、他部局所管の質問等に明確に回答できない点があった。会議資料は、会議開催の一週間前を目処に事前送付しているので、会議時に明確に答

えられるよう、特に、他部局にわたる質問があれば、事前に事務局に質問書を提出いただきたい。

4 閉会（15：50）

以上